

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101066
法人名	社会福祉法人 平成記念会
事業所名	グループホーム 勝占
所在地	徳島県徳島市勝占町松成44番6 (電話) 088-669-3610
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 15日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤14人, 非常勤2人, 常勤換算 旧館7.7人, 新館7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	5 階建ての 5 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~27,900 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 101 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 平成記念会 博愛記念病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは法人関連施設の最上階(5階)にあり、エレベーターで5階に上がると、木製の格子扉がありグループホームの玄関となっている。共用空間は広々としており、大きく開かれた南側はガラス張りで眺望が良く冬の日差しが暖かく差し込んでいる。畳コーナーやソファが置かれ、くつろげる空間作りがされている。動線が長く外出する機会の少ない利用者にとっては、機能低下を防ぐリハビリ空間としても活用されているが、日常生活では場所間違いも見受けられる。また、外には案内表示がなくホームがわかりにくい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、利用者の権利、義務の明示がなく改善課題であったが、今回は契約書に明示され、利用者及び家族にも説明がされていた。また、利用者、家族の意見、希望を反映された介護計画になっている。研修についても順次受講出来る体制に改善されている。ホームの案内版の設置、共用空間の過ごしやすい工夫、散歩や外出の機会、口腔ケア、緊急時の応急手当、感染症対策、危険物の保管管理等については、改善がみられていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が項目別に担当し、記入されている。しかし、それに対して協議が十分になされておらず共通理解ができていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は3ヶ月に1回開催されている。家族、第三者委員、法人代表者、管理者で構成され、市職員への参加の声掛けはされていない。討議内容はグループホームの状況報告に留まっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者及び家族の意見・要望に対しては希望に添えるよう努めているが、意見箱が1階に置かれている。記入者が人目を気にせず書きやすいための配慮とのことであるが意見箱の置き場所も含めての明示がされていない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時の挨拶・地域の祭りに参加する程度に留まっている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みんなで話し合い「自由」「尊厳」「喜び」を理念としているが、ホーム内に古い理念の掲示があり、地域密着型サービスとしての理念の掲示が見当たらない。	○	地域密着型サービスとしての理念を明示されたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は理解されているが、ホームの理念について言えない職員もあり、理念を理解しているとは言えない。	○	朝礼・ミーティング等を通じて理念を共有し、支援に活かされたい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	5階のグループホームから外に出る回数が少なく、散歩時の挨拶、地域の祭りへの参加にとどまっている。	○	運営推進会議・老人会・婦人会等へ積極的に働きかけ、地域の一員として交流を深められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を全職員が共通理解し、サービスの質の向上に活かすまでには至っていない。自己評価は全職員が項目別に担当し、記入されている。しかし、それに対して協議が十分になされておらず共通理解ができていない。	○	全職員で協議し自己評価・外部評価について共通理解されることが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回開催されている。家族、第三者委員、法人代表者、管理者で構成され、市職員への参加の声掛けはされていない。討議内容はグループホームの状況報告に留まっている。	○	2ヶ月に1回開催されたい。また、市担当者にも参加を呼びかけられ運営推進会議の内容の充実を図られたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との交流はあるが十分とは言えない。	○	先ずは、運営推進会議への出席を働きかけられたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況およびケアプラン等は定期的作成し、家族へも報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に本人及び家族の意見を聞くよう努力されている。しかし、意見箱の設置が建物の1階にあり、記入者への配慮で目立たない場所で記入しやすいようにとのことであるが表示が無くわかりにくい。	○	設置場所を明示するか、玄関入り口のわかりやすい場所に移動するなど検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。異動のある時には利用者・家族に説明している。		
I. 理念に基づく運営					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でセミナー等の研修がある。また、職員のスキルアップのための勉強会も開かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会には順番に参加しており、その他の研修会にも積極的に参加し、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
グループホーム					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族と一緒に見学したり、体験入居をしたりしてグループホームに慣れてから利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に空き瓶を使って花瓶を作ったり、貼り絵をして飾ったり、レクリエーションをしたりし、触れ合いを大切にしながら共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある方等難しい問題もあるが、利用者の思いや意向を大切にできるだけ実現できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通じて家族・職員と話し合い、個々にあった介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行うとともに、状況変化があった時には適宜見直しされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物等、利用者の希望に応じて柔軟に対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム利用前のかかりつけ医を継続受診している方について家族が受診に付き添えない時には通院支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望を聞き、重度化や終末期のあり方について全員で方針を共有している。また、併設病院があり、医療・看護の面で恵まれており夜間対応もできる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーは守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導でなく、利用者を中心に希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルに着き、さり気ない支援をしながら食事を楽しんでいる。準備・後片付けも役割分担されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった入浴支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、食器を洗ったりと役割分担をしている。セーターの袖口を編み直されている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、施設の周りを散歩している。また、2～3人ずつ車を利用してスーパーに買い物に出かけたりにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組まれている。夜間はエレベーターの下りロックが行われ使用できない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得ながら実地に即した避難訓練がなされている。スプリンクラーの設置もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。食事量・水分摂取量の記録もできている。献立は併設施設の管理栄養士の助言を受けながら作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くソファーや畳の空間がありテレビを観たり話をしたりくつろげる空間はできている。しかし、共用空間全体が広く、生活動線が長く使いにくさや場所間違いも見受けられる。	○	利用者の身体機能を考慮した生活環境を工夫されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇を持ち込まれている方もあり、利用者個々にその人らしい居室作りがされている。		